

国際ロータリー第2530地区東北第一分区



福島南ロータリークラブ

事務局/〒960-8151 福島市太平町字通85-2 ギャロウ・メイフアイビル2F2号室
tel:024-545-3793 fax:024-545-7878
代表電/フタバビル 960-8101 福島市上町4-30
tel:024-623-3811(fax) fax:024-623-0375
HPアドレス http://www.fukunr.jp/rotary/index.html

●会長 藤野 好夫 ●幹事 斎藤 浩
●副会長 金子 義興 ●副幹事 長木 光一 ●委員 橋本 英行・丹治 智幸・丹治 洋子



2010年-2011年Rテーマ

平成 23 年 4 月 13 日 (水) 青少年会館

第 38 回例会 ■メークアップ/22 名 ■修正/68 名 ■修正率/100% ■会員/68 名 ■出席/46 名 ■出席率/67.65%

本日のプログラム

1 開会点鐘	7 社会奉仕委員会より
2 ロータリーソング 我らの生業	8 テーブルディスカッション
3 四つのテスト	9 テーブル代表者発表
4 会長挨拶	10 幹事報告
5 ロータリーの友 読みどころ	11 各委員会報告
6 誕生記念品贈呈	12 閉会点鐘



今月・来月のプログラム

4月 20 日(水) クラブフォーラム	4月 27 日(水) 出席・会員増強報告
4月 27 日(水) 新会員スピーチ (佐藤朋也 会員)	5月 4 日(水) 法定休日
	5月 11 日(水) 誕生祝・ロータリーの友読みどころ

◆会長挨拶◆ 黒羽 好夫 会長



7日、11日と強い余震がありました。皆さん、被害はありませんでしたか？いつまで続くのかという不安な毎日とは存じますが、早く収まって昔話として話せる日が早く来ることを祈念いたします。

さて、現在、東日本大震災の被災者支援としていくつかのプログラムを進めているところです。一つはマッチング・グラントでございます。これは日本のロータリークラブと外国のロータリークラブが共同で奉仕支援をするプログラムです。支援クラブ、DDF資金をもとに物による支援が対象です。従来、日本のロータリークラブが外国の支援のために行われることが多かったのですが今回はわれわれ日本が支援を受ける側になりました。今回は横浜港北ロータリークラブとその台湾の姉妹クラブのお世話になり進める予定です。

菅原財団委員長と委員会の皆様を中心に今後の支援をしてまいります。どこの、誰に、何を支援するのがよいか皆様からアイデアをいただきたいと存じます。現在、福島、宮城、岩手の3県で86人の被

災孤児が生まれているようですがこのような日本の未来を創る若い世代を支援することができれば意義あるプログラムになることと思います。

また、8日にはガバナー事務所においてシェルターBOXの組み立て講習会が行われ、東北第1分区の各クラブみなさんと、当クラブからも10名近い会員が参加していただきました。避難施設の中では体育館のような広いスペースでの共同生活のため、プライバシーを守ることが困難で、不便を強いられるようです。このシェルターBOXを設置することにより、女性の更衣室、授乳施設、高齢者や病気の人が休む場所等に利用できれば大変便利だと思います。来週の例会は移動例会とし、会員みんなの力でシェルターBOXの組み立てと贈呈を行いたいと思いますのでご協力をお願いいたします。

さらに、24日にはI LOVE FUKUSHIMA チャリティイベントと称し、被災者に花見山見学の後、街なか広場でのイベント、ウイズ本町でのなんでも相談会も開催される予定です。当クラブからも相談員と数名参加されます。当日の運営や、募金活動にもご参加いただければ幸いです。

この後、今後の被災者支援をどうするかグループディスカッションをお願いいたします。

◆ロータリーの友 読みどころ◆

雑誌委員会 松崎 弘昭 会員

横書き 13P：今回の震災の記事 避難所でのこと



縦書き 2P：震災に関する記事
自分中心の考えになりがちであることを反省しなければならない。
物の見方のこと「自分の考えが常に正しい」と思ってしまうのが人間の本性であります。その見方を少し変えて縦のモノが線に見えたり、面に見えたりといういろんな広がりがあるということが書かれています。例として「人間と重なり合うごんぎつね」という記事が載っています。今回の震災の体験と記事を重ね合わせながら後でゆっくりと読んでいただければと思います。

◆誕生記念品贈呈◆ 親睦委員会

○S23.04.02

佐久間功会員
63歳になりました。精進して頑張ります。



○S23.04.05

高橋和子会員

○S38.04.20

柴田和美会員

○S34.04.20

福田昌明会員 1月に福島に転勤してきました先日地元沼津に帰ったのですが、皆がんばれと応援してくれました。どの業界も厳しいですが前向きに考えていきたいと思っております。

○S33.04.20 佐藤朋也会員

まもなく53歳になります。余震や景況など憂慮すべきことが多い昨今ですが、楽しい事を日々考え過ぎていきたいと思っております。

○S24.04.24 黒羽好夫会員

62歳になります。せめて10歳の娘が成人式を迎える72歳までは頑張りたいと思っております。今後ともよろしくお願いたします。

○S25.04.26 太田久雄会員

◆シェルターBOXに関して◆

社会奉仕委員会

佐久間功会員

シェルターBOXは大人5、6人ぐらい入れるテントでビニール製の軽く丈夫なものです。これを各避難所(伊達市・川俣町・大玉村)へと配布いたします。設置等で人数を要しますので、社会奉仕活動としては是非皆さんご協力ください。内容は資料の配送手順などを確認ください。日程、班編成は決まり次第詳細を説明いたします。



◆グループディスカッション◆

これからの福島南 RC として今回の被災・災害に対して奉仕のあり方をどうしていけばいいか。資金面・労働面、期間など各テーブル毎に話し合い、代表者より発表していただきます。

○小坂和也会員

震災孤児への支援、被災地への金銭支援、行政とは別にロータリーとしての支援方法の立案

○佐久間功会員

いろいろな意見がでたのですが、やはり地域に必要とされるロータリーでなければならない、ということに尽きるとの結論でした。

○阿部喜行会員

子ども達の修学旅行のお手伝い。避難所での不便の解消など。

○松崎弘昭会員

現地で被災された方と、遠方より避難してきた方では本当に必要とされる物に違いがあると考え、それに合わせたものを届ける必要がある。

○斉藤浩会員

会員の中にも多くの方が被災されておりますが、しかし今回は被災者へと義援金を差し上げるのがよろしいかと思えます。物資よりも義援金が今必要とされていると思えます。

○吉田和義会員

最終的にはお金での支援が最適との結論となりました。例えば2、3年でのスパンで会員ごとに災害義援金を募り、必要に応じてまとまったお金を届けられるようにしては、という話でまとまりました。

○黒羽好夫会長

皆さん熱心なご討議ありがとうございました。本当に我々が必要とされている時期だと思っております。今日の話をもとに次週の例会も具体的な内容について討議できればと思っております。よろしくお願いたします。

◆スマイリングボックス◆

○昔はここが例会会場でした。ナツカシイ

斉藤 浩 会員

○生きてさえいれば、何か出来る

富田 健三郎 会員

○本日から一步前へ

林 克重 会員

○今回の被災に遭われた方、お見舞い申し上げます。
福田 順一 会員

スマイル 45,000円 累計 1,354,701円
財団・米山 39,000円 累計 1,343,000円

～ 私の職業の目的 ～ 菅原 節子 会員

人と人・地域と地域を結ぶ FM ラジオから
福島の元気を発信する事。

一編集後記一

上を向いて歩こう。(金子)